

(案)

平成 26 年 12 月 日

中国運輸局長 殿

三次市地域公共交通会議

平成 26 年度地域公共交通確保維持改善事業に係る
事業評価の報告について

地域公共交通確保維持改善事業実施要領（平成 23 年 4 月 1 日国総計第 5 号、国鉄財第 4 号、国鉄業第 4 号、国自旅第 20 号、国海内第 8 号、国空環第 5 号）に基づき、平成 26 年度地域公共交通確保維持改善事業（陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業）の事業評価を実施したので、事業評価関係書類を送付します。

<問い合わせ先>

（住所）

〒728-8501

広島県三次市十日市中二丁目 8 番 1 号

（担当部署） 地域振興部地域振興課

（電話番号） 0824-62-6395

（FAX 番号） 0824-62-6404

（メールアドレス）

chiiki@city.miyoshi.hiroshima.jp

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通ネットワーク計画に基づく事業）

平成26年12月 日

協議会名：三次市地域公共交通会議

評価対象事業名：地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
			A	B		
備北交通株式会社 三次町循環 南畑敷町循環	三次町循環 4.7km 南畑敷町循環 8.1km 計 12.8km	利用者の意見を聞くため、アンケート調査を実施した。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	回数券の販売終了等により、計画していた1循環あたりの平均利用者6.7人に対し、実績は5.6人であった。	新たな施設（市民ホール）への立ち寄り等、運行路線の見直しを検討・実施する。
備北交通株式会社 赤名線 （車両減価償却費等国庫補助金）	一日 4往復 （車両減価償却費等国庫補助金）	—	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を5.7人以上としていたが、実績は5.2人であった。※車両減価償却補助により1台導入した。	タ方の便について下校に利用しやすいようダイヤや改正の要望もでており、見直しを検討する。
備北交通株式会社 下高野線① 下高野線②	下高野線① 一日 3往復 下高野線② 一日 1往復	—	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	1便あたりの利用者を2.5人以上としていたが、実績は3.4人であった。	4月以降路線を見直してから利用が伸びており、引き続き沿線等への利用促進を行う。
NPO法人元氣むらさくぎ 作木町上地区 作木町中地区 作木町下地区	各地区週1回	一部運行路線の見直しを行った。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	11月の事故の影響もあり、1月の利用者を40人以上に対し、23人となった。	作木町内を運行している市民バス等との住み分けなどについて、検討を実施する。

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成26年12月 日

協議会名：	三次市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	三次市は広島県北部の山間地域に位置し、面積は778.19km²で広島県の約9.2%を占めており、人口は55,565人(H26.6月末)となっている。 近年では人口減少・高齢化が進展しており、平成22年の高齢化率は31.4%、また15歳未満の年少人口比率は13.1%となっている。こうした状況の中、誰にとっても安心して暮らせる地域づくりのためには、来訪者を含めた、誰もが安心して移動することができると地域公共交通システムの構築が必要不可欠である。その一環として、中でも、公共交通の主たる利用目的である通勤・通学、通院、買い物物の利用を促進するため、病院や高校など市中心部への移動手段を確保し、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統(デマンド型・路線型)を組み合わせることで、生活交通ネットワークの構築を進めているところである。

平成26年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

三次市地域公共交通会議

生活交通ネットワーク計画（地域内ライダー系統）の概要



三次市の概要

- ・平成16年4月に1市4町3村が合併
- ・人口 56,605人（平成22年度国勢調査）
- ・面積 778.19km²

三次市地域公共交通会議の構成員

三次市 広島県 中国運輸局 三次警察署 学識経験者
住民又は利用者の代表 私鉄中国地方労組備北支部
備北交通(株) (有)甲奴タクシー 三次みどりタクシー(株)

概要

三次市は平成16年に旧三次市と双三郡、甲奴郡甲奴町が合併し広域な市となり、広域移動を中心として主要拠点間の移動を路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口減少、マイカー利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持確保が困難な状況が生じている。一方で、合併による生活圏域の広域化等により市民の移動ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した効果的・効率的な公共交通サービスの提供が必要である。持続可能な地域内交通を確保維持する取組として、市街地を循環するバス「くるるん」、区域運行の過疎地有償運送「さくぎニコニコ便」を実施している。また広域移動として、赤名線、下高野線の運行を実施している。

協議会の主な取り組み

- ・市街地循環便の整備
- ・地域内生活交通の再編
- ・路線バスの再編
- ・三次市民タクシー制度の改善
- ・車両バリアフリー化
- ・公共交通の利用促進策の推進（バスの乗り方教室）
- ・交通空白地域におけるライダー交通の導入

協議会における検討

交通会議の開催状況 8回開催

- ・第1回（6月27日）ネットワーク計画を協議
- ・第2回（12月24日）さくぎニコニコ便の事故報告
- ・第3回（2月21日）ネットワーク計画の変更を協議
- ・第4回（4月25日）交通会議予算・事業を協議
- ・第5回（6月27日）ネットワーク計画を協議
- ・第6回（8月28日）市民バスの路線変更を協議
- ・第7回（10月16日）連携計画更新に向けた今後の取組について協議
- ・第8回（12月19日）事業評価について協議

三次市地域公共交通会議 事業の評価

定量的な目標・効果

- 市街地循環バスくるるん：(目標)1循環あたり6.7人以上(H24.10～H25.3の利用者6.5人)
(効果)市街地での通院や買い物の移動支援
- さくぎニコニコ便：(目標)1月あたりの利用者数を40人以上(前年度38.8人)
(効果)三次市中心部へ移動する際の接続向上、外出機会の提供、医療機関等への移動支援
- 赤名線：(目標)1便当たりの利用者数を5.7人以上(H25.4～5の利用者5.5人)
(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進
※車両減価償却補助により1台車両を導入。2両で運行しており、うち1台が補助対象車両。
- 下高野線：(目標)1便あたりの利用者数を2.5人以上(H25.4～5の利用者2.3人)
(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- 市街地循環バスくるるん
利用者の声を聞くため、アンケート調査を実施した。
- さくぎニコニコ便
一部運行路線の見直しを行い、利便性の向上を図った。

実施した利用促進策

- ・自治組織などにチラシを配布
- ・沿線地域での「バスの乗り方教室」

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

引き続きバスへの関心を高める取組や、利用ニーズに合わせた計画の見直しを行ったが、結果として下高野線以外で目標値を下回った。

地域住民の意見の反映

- ・くるるんについては、8月に利用者へのアンケート調査を実施し、結果については今後のダイヤ編成等の参考とするものである。
- ・さくぎニコニコ便については、民生委員や作木町内の月1回の関係者会議において要望や利用促進について検討を行った。

事業実施の適切性

すべての路線(区域)において、運行事業者並びに関係団体協力のもと、計画どおり事業は適切に実施された。しかし、下高野線以外では目標数値を下回る結果となり、今後利用者の状況を把握しながら、維持確保に努めていく必要がある。

目標・効果達成状況

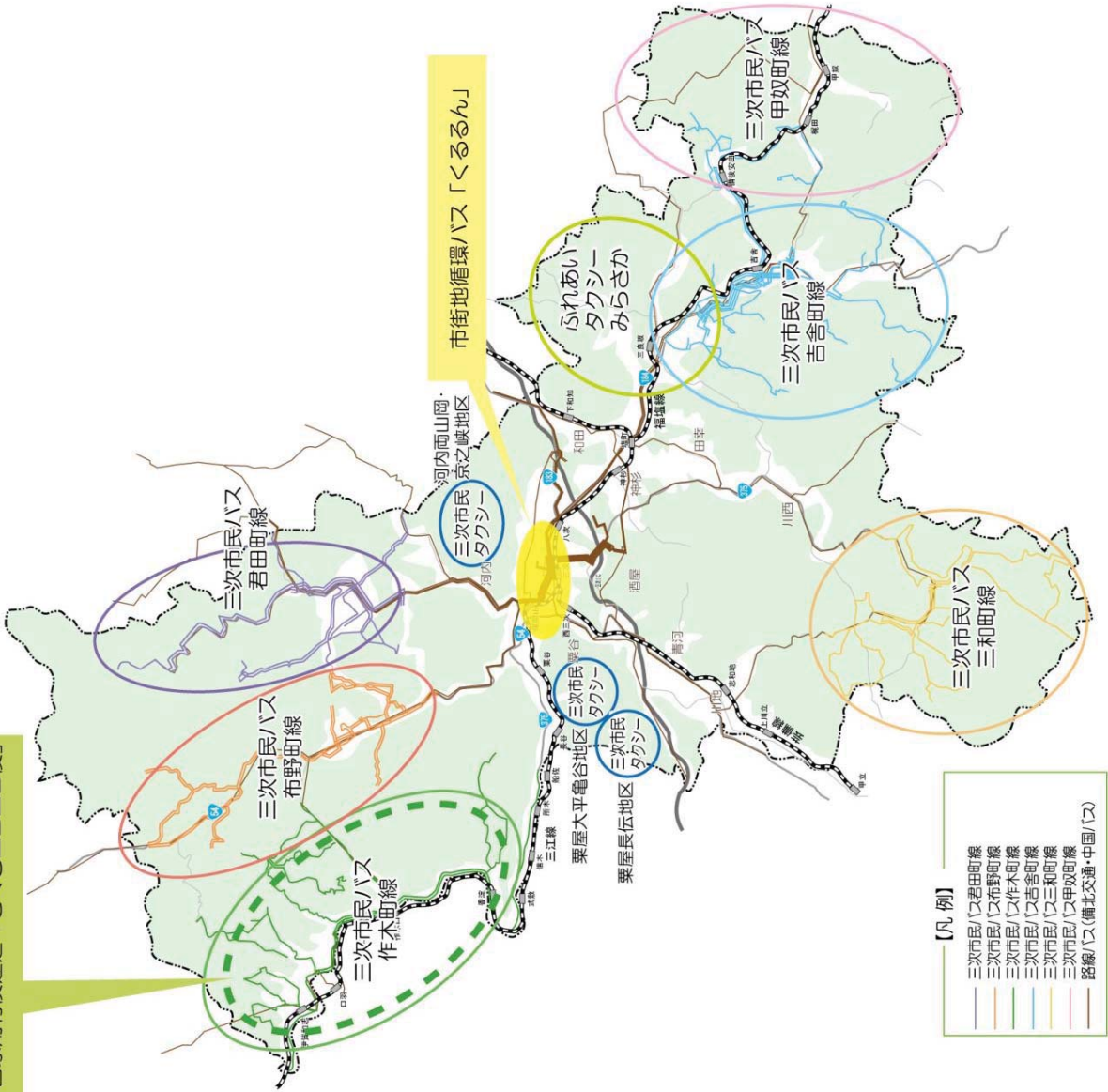
- 市街地循環バスくるん:(目標)1循環あたり5.6人で、目標6.7人以上を下回った。ルートについて再検討し、新たな施設への立ち寄り等利便性の向上を図る必要がある。
- (効果)市街地での通院や買い物の移動手段を確保維持することができた。
- さくぎニコニコ便:(目標)1月あたりの利用者数が23人で、目標の40人以上を下回った。利用者の施設入所等により利用者が減少している。また11月の事故の影響もあった。
- (効果)三次市中心部へ移動する際の接続向上、外出機会の提供、医療機関等への移動支援を確保できた。
- 赤名線:(目標)1便当たりの利用者数5.2人で、目標5.7人以上を下回った。
- (効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学、病院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- 下高野線:(目標)1便あたりの利用者が3.4人で、目標2.5人以上を上回った。
- (効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学、病院、買い物等の利用促進を図ることができた。

事業の今後の改善点

- 市街地循環バスくるん:利用者が減少傾向にあることから、ダイヤ・ルートについて見直し、また新たな施設への立ち寄り等による利便性の向上を図る。
- さくぎニコニコ便:3地区のうち、上地区と下地区については運行割合が30%以下となっている。作木町内を運行している市民バスとの住み分けを検討するとともに、新たな利用者の開拓を地道に行う。
- 赤名線:利用については目標値を下回っており、ダイヤを今一度検証し、必要であれば通勤・通学等に利用しやすいダイヤへの見直しを図る。
- 下高野線:平成26年度中に利便性向上のため一部路線の変更を行ったことにより利用が伸びている。沿線地域への広報等により、利用促進を図っていく。

交通体系図別紙

自家用有償運送「さくぎニコニコ便」

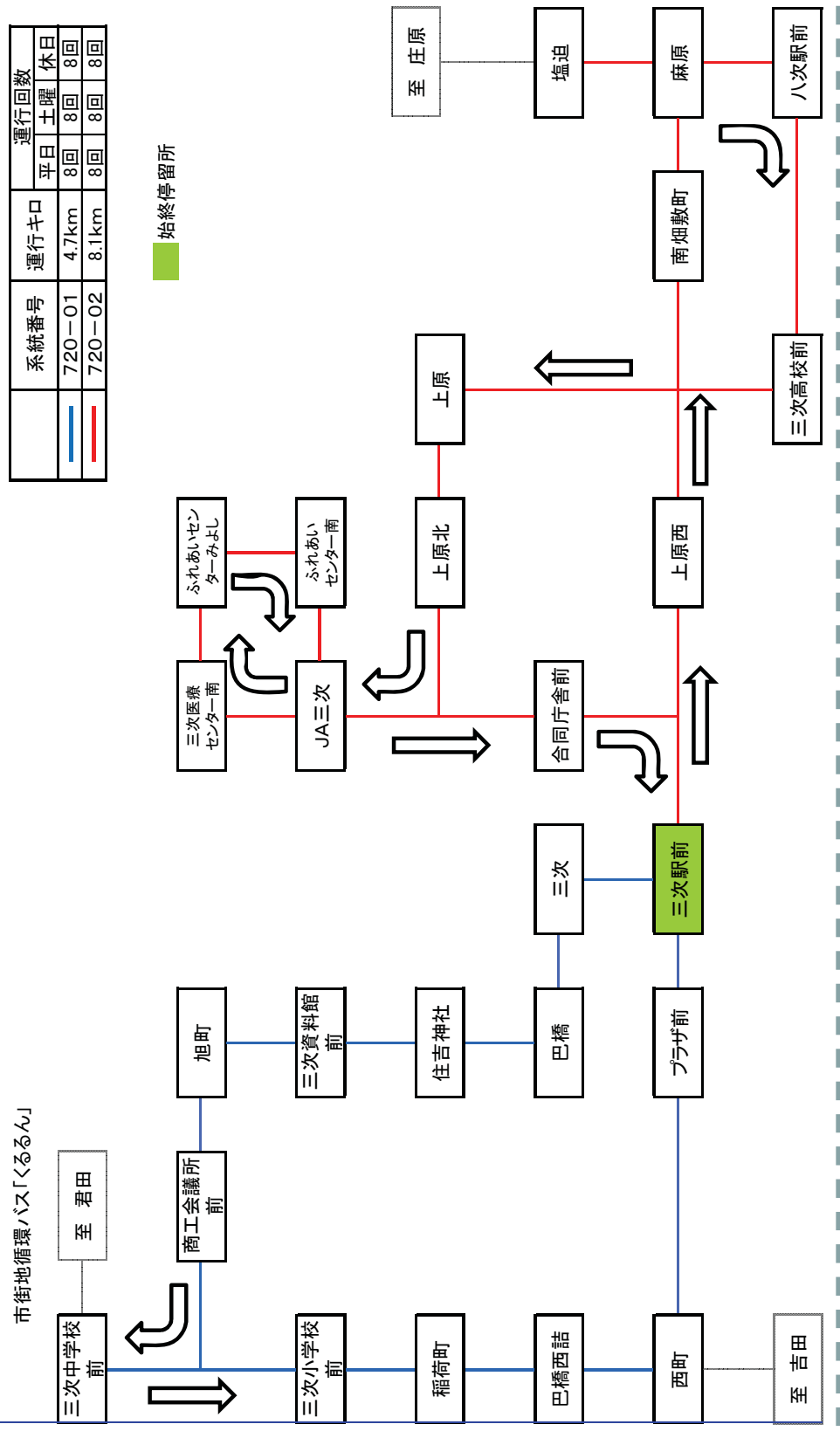


運行系統圖別紙

系統名 三次町循環・南敷敷町循環
運行形態 4 条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数 1/1、1/2を除く毎日運行 一日8便
運賃 一乗車200円(高校生まで100円)

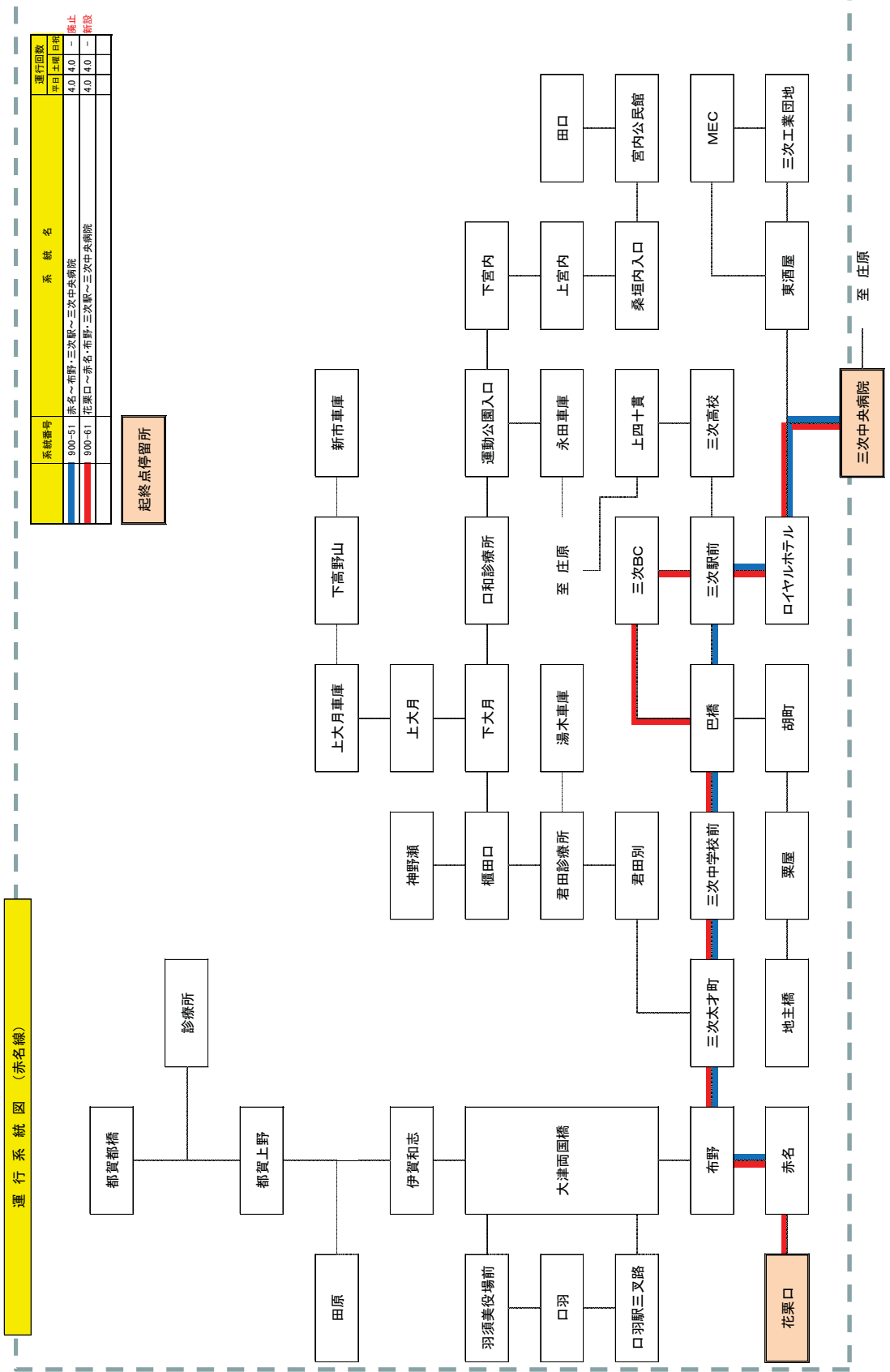
運 行 系 統 圖

市街地循環バス「くるるん」



運行系統図 別紙

系統名 赤名線
 運行形態 4条路線、乗合バス型(定期)
 運行日・便数 1/1、1/2を除く毎日運行 一日4便
 運賃 対キ口区間制(150円～1460円)

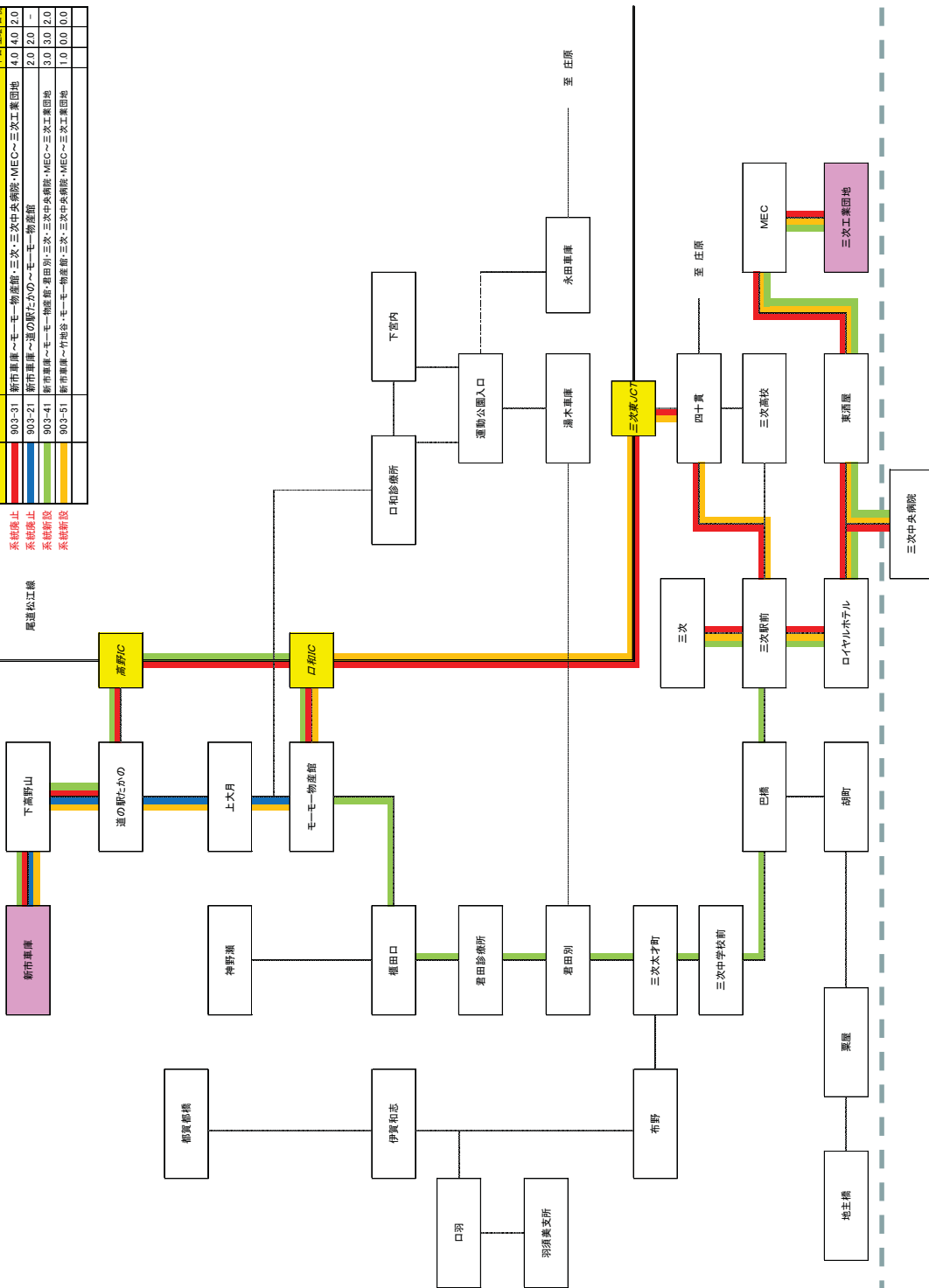


運行系統図 別紙

系統名 下高野線
 運行形態 4条路線・乗合バス型(定期)
 運行日・便数 月～土(君田町経由)3便、月～金(口和町竹地谷経由)1便
 運賃 対キロ区間制(160円～1520円)

運行系統図 (下高野山線) H26.4.1

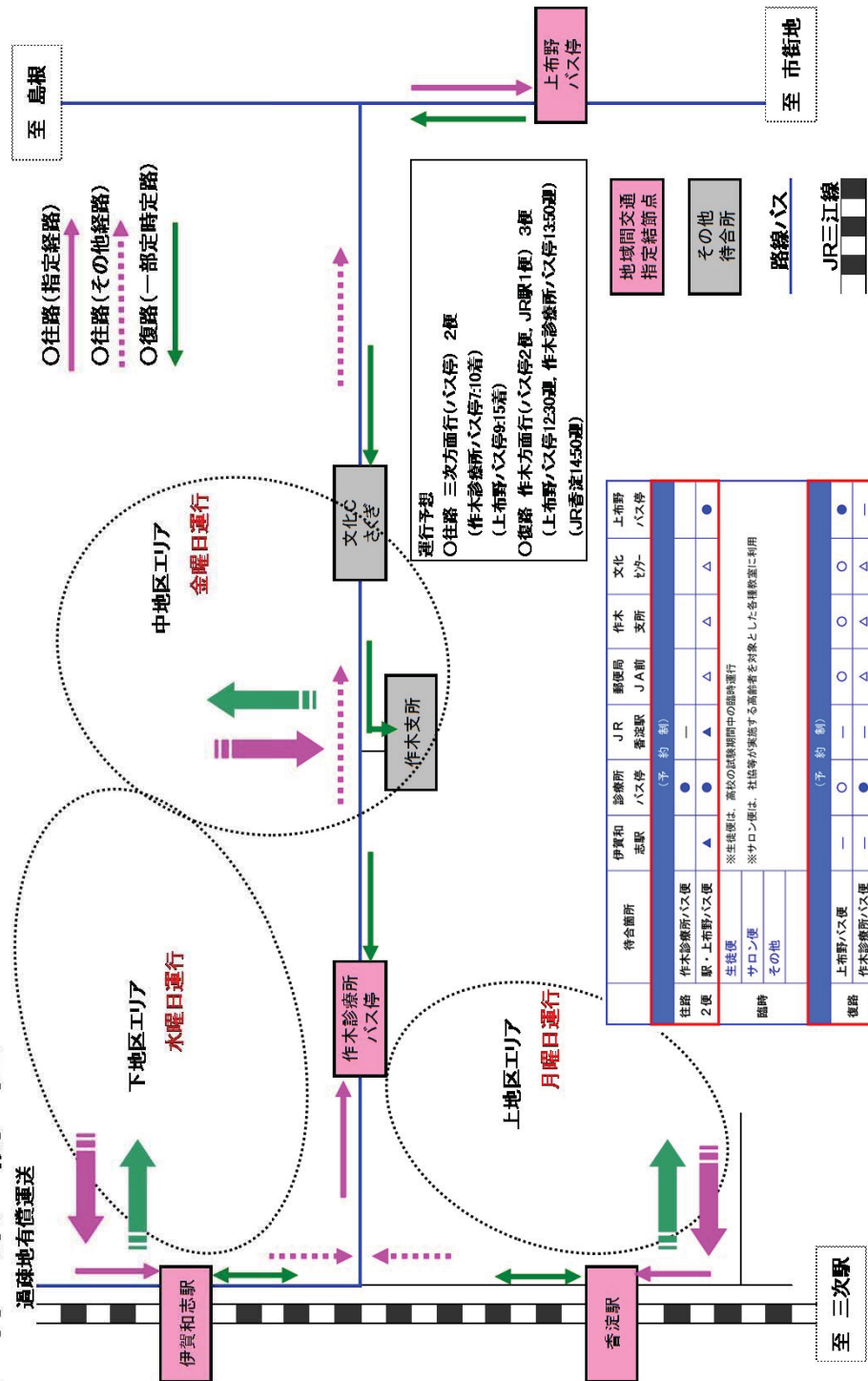
系統番号	系統名	運行回数 平日 土曜 日祝
903-31	新市車庫～モ～モノ産館・三次・三次中央病院・MEC～三次工業団地	4.0 4.0 2.0
903-21	新市車庫～道の駅たかの～モノ産館	2.0 2.0 -
903-41	新市車庫～モ～モノ産館・君田別・三次・三次中央病院・MEC～三次工業団地	3.0 3.0 2.0
903-51	新市車庫～竹地谷・モノ産館・三次・三次中央病院・MEC～三次工業団地	1.0 0.0 0.0



運行系統図 別紙

系統名 作木町上地区・中地区・下地区
 運行形態 過疎地有償運送・区域デマンド型
 運行日・便数 月・水・金 上地区3便、中地区5便、下地区2便
 運賃 一乗車300円

運行系統図



待合所	伊賀和志駅	診療所 バス停	JR 香淀駅	郵便局 JA前	作木 支所	文化 心	上布野 バス停
作木診療所バス便	●	●	●	●	●	●	●
往路 2便	▲	●	▲	▲	▲	▲	●
上布野バス便	●	●	●	●	●	●	●
生徒便	●	●	●	●	●	●	●
サロン便	●	●	●	●	●	●	●
その他	●	●	●	●	●	●	●
臨時	●	●	●	●	●	●	●
往路 3便	●	●	●	●	●	●	●
上布野バス便	●	●	●	●	●	●	●
作木診療所バス便	●	●	●	●	●	●	●
星駅(JR)便	●	●	●	●	●	●	●
タ・JR便	●	●	●	●	●	●	●
臨時	●	●	●	●	●	●	●

※年休便は、高校の試験期間中の臨時運行
 ※サロン便は、社員等が実施する高齢者を対象とした各種教習室に利用